

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科	環境園芸学科			
科目名称	持続可能な社会と環境：SDGsの視点から						授業形態	演習		
科目コード	531818	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験担当教員	○	Active・L	○	
担当教員名	呉 海鍾							ICT活用	○	
授業概要	<p>本授業は、持続可能な社会の実現に向けて、SDGs（持続可能な開発目標）の視点から環境問題を総合的に学ぶ。地球環境の現状と課題（気候変動、資源の枯渇、生物多様性の減少）を理解し、SDGs達成に向けた具体的なアプローチを深める。授業では、国際的な環境取り組み（京都議定書、パリ協定）、日本の環境政策や法制度、企業の社会的責任（CSR）についても学ぶ。また、持続可能な消費と生産、環境経営、地域社会や国際協力の重要性を学び、最終的にグループプロジェクトを通じてSDGsに基づく解決策を提案する。学生は実践的な知識を習得し、持続可能な社会実現のための具体的なアクションを考える力を養う。</p> <p>この授業は、実務経験を持つ教員が担当し、実際の環境問題や企業の取り組みを基にした事例を通じて、理論と実践を結びつけた学びを提供する。</p>									
関連する科目	環境社会学、社会学、地域データ分析など									
授業の方法と進め方	<p>本授業は、講義とアクティブラーニング（参加型）を組み合わせた全15回の構成で進める。講義では、SDGsや持続可能な社会に関連する基本的な概念や理論を解説し、グループディスカッション（GD）を通じて学生同士で意見交換を行い、深い理解を促進する。さらに、映像資料や事例分析を活用し、実際の事例に基づいた学習を行うことで、学生が主体的に考え、学びを深める機会を提供する。</p> <p>ICTを活用した学習支援として、オンラインプラットフォームを用いた教材配信、課題提出、ディスカッションの場を提供する。授業中には、リアルタイムアンケートやオンラインホワイトボードなどのデジタルツールを活用し、学生の意見を可視化しながら議論を進める。また、一部の授業ではオンデマンド教材を活用し、学生が自身のペースで事前学習や復習を行えるよう支援する。</p> <p>毎回の授業終了後には課題レポートや小テストを提出し、学習内容の定着を図る。学期末には、最終課題レポートとプレゼンテーションを通じて、学生の理解度や学習の成果を総合的に評価する。授業を通じて、SDGsに対する実践的なアプローチを身に付け、持続可能な社会実現に向けた具体的な提案力を養う。</p>									
第1回	<p>イントロダクションとSDGsの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・eco検定の試験概要 ・環境問題の背景と基本概念 									
第2回	<p>地球環境問題の現状と課題①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動（地球温暖化、大気汚染） ・国際的な取り組み（京都議定書、パリ協定など） 									
第3回	<p>地球環境問題の現状と課題②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境（森林破壊、生物多様性の減少） ・資源問題（エネルギー、鉱物資源の枯渇） 									
第4回	<p>社会とSDGsのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境、経済、社会の問題とSDGsの関連 									
第5回	<p>日本の環境政策と法制度①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法、温暖化対策推進法 ・環境アセスメント制度と関連法規 									
第6回	<p>日本の環境政策と法制度②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会の構築（3R、廃棄物処理法） 									
第7回	<p>環境経営とCSR（企業の社会的責任）①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営の基本概念 ・環境マネジメントシステム（ISO 14001など） 									
第8回	<p>環境経営とCSR（企業の社会的責任）②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮型ビジネスの事例 ・ESG投資とサステナブル経営 									
第9回	<p>持続可能な社会の実現①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発目標（SDGs）と環境 ・持続可能な消費と生産 									
第10回	<p>持続可能な社会の実現②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育と意識啓発 ・地域社会と国際協力 									
第11回	<p>持続可能な社会の実現③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市と環境問題 									

	・災害・放射性物質のリスク
第12回	持続可能な社会に向けたアプローチ ・日本及び国際社会における環境をめぐる動き
第13回	まとめと最終課題・発表の準備 ・最終課題レポート作成（環境、経済、社会の問題とSDGsについて）
第14回	グループプロジェクト発表①
第15回	グループプロジェクト発表② ・今後の展望
授業の達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの概念とその実践について理解する。 ・地球環境問題の背景と課題を把握する。 ・環境、経済、社会の問題がSDGsにどのように関連するかを説明できる。 ・日本および国際的な環境政策・法制度の概要を理解し、その影響を評価する。 ・企業の社会的責任（CSR）や環境経営の重要性を理解し、実例を分析する。 ・グループプロジェクトを通じて、SDGsに基づく解決策を提案し、プレゼンテーションスキルを向上させる。 <p>《到達目標：学士力》において、SDGsや環境問題の知識を習得し、実践的な問題解決能力を養う。最終的にECO検定合格を目指す。</p>
学修成果との関連	2.自分の言葉で表現できる能力を有する。／3.現代社会に関する基本的知識を有する。／6.地域社会への貢献に必要な知識・技能を有する。
授業時間外学習【予習】	毎回の授業前に、授業内容や関連する参考書や資料を読解し、その後授業に臨む。（約1時間）
授業時間外学習【復習】	毎回の授業後に、授業内容やグループディスカッションの内容を振り返り、理解を深める。（約30分）
課題に対するフィードバック	各課題に関するフィードバックは、授業ごとに適宜行います。これにより、学生の積極度や理解度が促進される。
評価方法・基準	授業内での積極的な学習態度（例：グループディスカッション（GD）への参加度）、また授業中の小テストや課題の提出状況を含めて、50%を占めます。さらに、学期末の最終課題の提出と発表なども50%で総合的に評価される。
テキスト	テキストは授業中に適宜紹介し、関連資料の配布やスライド、ビデオなども活用して進めていく。
参考書	適宜授業で紹介する。
備考	